

【ご参考資料】

2013年12月2日

## 格付会社S&Pによるオランダの格下げについて

### 格付をAAAからAA+に引き下げ

2013年11月29日、格付会社S&P(スタンダード・アンド・プアーズ)は、オランダの外貨建ておよび自国通貨建て長期債務格付を「AAA」から「AA+」へ1段階引き下げました。見通しは「安定的」としました。

これまでS&Pを含む主要格付会社3社すべてが、同国の長期債務に対して、最上位の格付を付与していました。また、今回のオランダの格下げを受けて、S&Pが「AAA」を付与するユーロ圏の国は、ドイツ、フィンランド、ルクセンブルグの3カ国となりました。

今回の格下げの理由についてS&Pは、オランダの経済見通しが、従来の同社の想定よりも弱含んでいることを挙げています。また、同国の1人当たり実質GDP(国内総生産)伸び率が、同等の経済水準にある他の先進国と比較して、低水準にある点も指摘しています。

しかしながら、野党を巻き込んだ、財政赤字・政府債務を抑制するための政策合意は維持される見通しであること、水準自体は高い1人当たりGDP、対GDP比で高い水準にある経常収支黒字や対外純資産残高などに言及し、格付見通しについては、「安定的」としました。

### 金融市場の反応は限定的

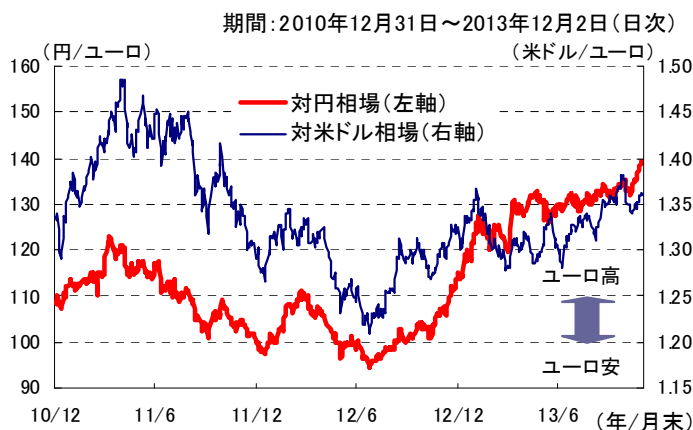
S&Pによるオランダの格下げ発表を受けた金融市場の反応は限定的でした。11月29日のオランダ10年国債利回りは、2.027%程度で前日比変わらず、同日の東京外国為替市場におけるユーロ相場は、対円で前日比0.2%程度、対米ドルで同0.1%程度のユーロ高となりました。

以上

【図1】オランダの外貨建て・自国通貨建て長期債務格付  
(2013年11月29日現在)

格付会社	11月29日発表	11月29日発表以前
S&P	AA+ (見通しは「安定的」)	AAA
(参考) ムーディーズ	Aaa (見通しは「ネガティブ」)	(参考) フィッチ
		AAA (見通しは「ネガティブ」)

【図2】ユーロの対円・対米ドルレートの推移



(注) 2013年12月2日は日本時間午前9時頃の値

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成